高等学校におけるコミュニケーション教育としてのプレイバックシアター

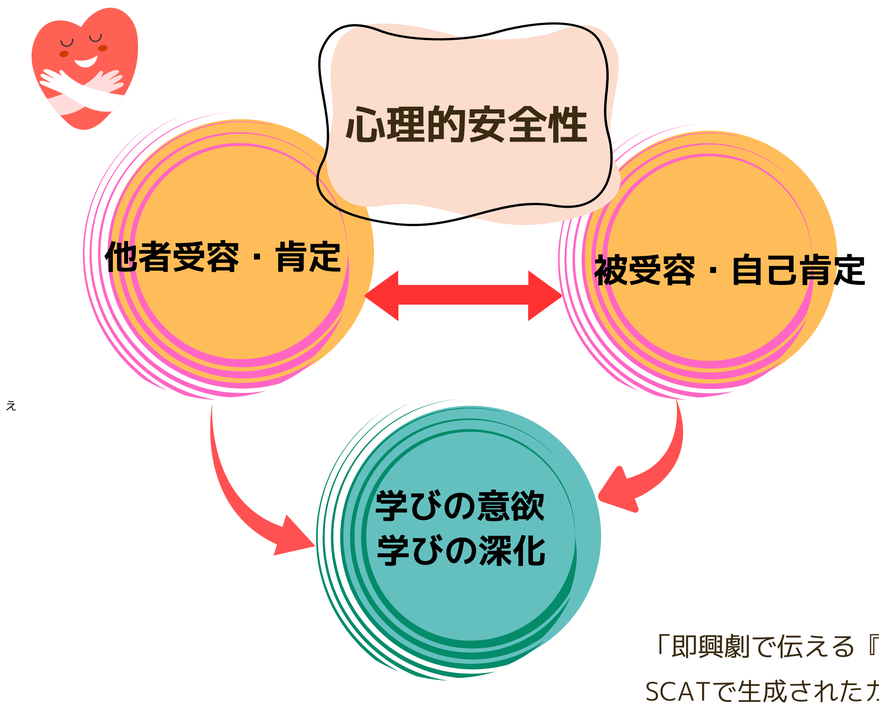
学びの基盤となる安心の場づくりに向けて

早坂晴子　Haruko Hayasaka,Ph.D.
博士（教育情報学）
宮城県仙台向山高等学校　主幹教諭
あおばプレイバックシアター所属

概要

学習者相互が「安心して自分を表現できる」（心理的安全性）ことが主体的・対話的で深い学び」（文科省 2018）を実現する大切な要素となる。演劇的手法を取り入れた授業において、学習者が相互に受容し合い、他者を肯定し、自己肯定感を高めていること（「心理的安全性」の醸成）が学習者の「学びの意欲」「学びの深化」をもたらすことが分析されている。（早坂2024・右図モデル）
参加型即興劇「プレイバックシアター」は「話すこと・聞くこと（双方向性）」「即興（変容）」という音声言語コミュニケーションの要素（早坂2017）を内包し、非言語、音楽を伴った表現活動である。本発表では、プレイバックシアターの質の高い公演が高校生に心理的安全性の醸成のみならず、コミュニケーション教育、表現教育そのものの学びの意欲、深化をもたらす可能性を示したい。

心理理的安全性と学びの関係モデル



「即興劇で伝える『源氏物語』」
SCATで生成されたカテゴリー（早坂2024）

心理的安全性が学びの深化をもたらす

古典の授業『源氏物語・若紫』1つの段落終了毎に読解した内容を劇で表現した。グループ（4人）毎に計6回の劇を実施。毎回各自がノートに記した振り返りをデータとしてSCAT（質的データ分析手法）を用いて分析

「劇団プレイバッカーズ」の公演～2023、2024実施

対象と方法

◆対象　仙台向山高校1年生200名（40名×５クラス）
◆方法　1クラス毎（60分）×５公演実施
◆実施　**2023年6月26日（月）、27日（火）**
　　文化庁「文化芸術による子供育成事業」
　　2024年11月25日（月）、26日（火）
　　三菱みらい育成財団助成を活用
総合的な探究の時間「コミュニケーション講座」として実施
2024は劇団プレイバッカーズ＋虫明美喜先生（ミュージシャン）

生徒に示した「お知らせ」

公演の実際（2024年を中心として）

①教室レイアウト（イメージ）

②自己紹介と「種まき」

③アイスブレイク

④手を挙げて自分の体験を語る生徒

⑤語った体験が、目の前で、間を置かずに音楽とともに演じられる。

結果（2024年を中心として）

◆「種まき」と「アイスブレイク」が後押しした「テラー」の登場
写真②種まき：最初の自己紹介と一緒に高校時代の行事への思い出を語る。
写真③アイスブレイク「これまでで一番思い出に残った行事は何でしたか？」と全体に呼びかけ、行事ごとに生徒を集めてフリートークをする。種まきとアイスブレイクに支えられて、各クラス３、４名の生徒が自ら手を挙げ、体験を語るテラーとなった。
◆豊かな反応と集中の60分
級友が語る経験が演じられる様子に対し、生徒たちは時に笑い、時に驚嘆の声を挙げて非常に集中していた。

考察・分析～参加生徒の感想を質的分析

当日参加した生徒はそれぞれA4・1枚程度の感想を記した。SCAT（大谷2019）により、3つのカテゴリーが生成された。
「即興への驚嘆」
打ち合わせなしで劇ができることへの畏敬の念、驚き
「表現への感嘆」
非言語、身体を豊かに使っての演技、効果的に奏でられる音楽への感動
「他者受容・肯定」
級友の体験、気持ちの受け止め、共感、理解

カテゴリーの関係モデル

3つのカテゴリーは相互に重複している。「即興への驚嘆」と「表現への感嘆」は同時に表出されるデータが多い。
また、同様に「即興への驚嘆」「表現への感嘆」と「他者受容・肯定」が同時に表出されているデータも分析された。

同時表出のデータ例

・クオリティが即興で作り上げたとは思えないほど高く、伝えたいことがひしひしと伝わってきた。（即興への驚嘆）またその**意見を軽蔑することなく真摯に受け入れていてさすがだと思った。（他者受容・肯定）**
・インタビューの様子を見て、すごいと思ったことは、思い出の内容よりもその時の感情についての質問をたくさんして、その場面を感情豊かに表現しているところです。思い出の内容よりも、そのときの気持ちを豊かに表現することで（表現への感嘆）、その人が何を感じていたのか、どういう想いだったのかがよく伝わってきました。（他者受容・肯定）

結論・今後に向けて

公演が「他者受容・肯定」を醸成したことが分析された。さらに上記のデータ例に見出されるように、「プレイバックシアター」が内包する仕組み、アクターやコンダクター、ミュージシャンの表現力が高校生に「表現」や「他者受容・肯定」に関する学びをもたらしていることが分析された。プレイバックシアターが心理的安全性の醸成のみならず、コミュニケーション教育、表現教育への学びの意欲、学びの深化をもたらす点に着目し、今後の教育活動の中で継続して取り入れていきたい。

こちらもご覧ください！
劇団プレイバッカーズ 2023年の公演（学校HP）
東北大生による公演と座談会（2023）
あおばプレイバックシアターの皆さん

参考
文部科学省（2018）学習指導要領（平成30年告示）
早坂晴子（2017）東北大学博士学位論文ー音声言語教育に関する実証的研究
大谷　尚（2019）質的研究の考え方ー研究方法論からSCATによる分析まで．名古屋大学出版会
宗像佳代（2006）プレイバックシアター入門【脚本のない即興劇】.明石書店